

主催：あわホームホスピス研究会 共催：【在宅医療連携拠点事業所】徳島往診クリニック

この事業は日本ホスピス在宅ケア研究会の助成金を受けています。

第2回 在宅ホスピスケアボランティア研修

徳島初、地域をまきこんだ看取りのしくみ造りが始まります

あなたも参加しませんか!?

あわホームホスピス研究会は、ホスピスケアの理念に基づき、病气療養者、特にがん患者と家族への支援の仕組みのひとつとして、保健医療福祉職と共にチームを組んで、患者支援活動を行うボランティアの育成を始めます。

まずは、日ごろ、在宅療養にかかわる専門職の皆さんに、ケアボランティアの役割を知っていただく目的で研修を開催します。

介護医療分野のプロにも役立つ内容を企画しています。ご連絡をお待ちしています!!

対象 介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員・薬剤師・看護師等、在宅療養にかかわるすべての専門職

定員 20名

日時 1日目 2012年11月12日(月) 午後6時30分～2時間程度
2日目 2012年11月26日(月) 午後6時30分～2時間程度

受講料 各回 500円(資料代)

会場 徳島往診クリニック附属訪問看護ステーションホール
(徳島市沖浜東2-17ふれあい健康館駐車場入り口側向かい)

申し込み方法 参加する方の氏名、職種、所属、連絡のつく電話番号・メールアドレスを下記へご連絡ください。

◆メール送信◆gotaneko5@yahoo.co.jp

◆郵送◆〒773-0015 小松島市中田町字千代が原23-2 福井方
あわホームホスピス研究会 五反田 千代

研修プログラム

※両日ともアンケートとグループワークにご協力いただきます。

	内 容	講 師
1日目 11/12	在宅ホスピスケアボランティアの役割 がん患者と家族の理解	あわホームホスピス研究会 五反田 千代
	疼痛緩和の実際	徳島往診クリニック院長 吉田 大介 氏
2日目 11/26	傾聴—自分を物語る意味— (ロールプレイを通して)	あわホームホスピス研究会 五反田 千代
	在宅緩和ケアの実際 看取りの過程とケア	訪問看護認定看護師 長谷 康子 氏





在宅ホスピスケアボランティア研修プログラム

1日目 11/12(月) 会場：徳島往診クリニック付属訪問看護ステーション

	内 容	講 師
18:30 ~ 18:40	ご挨拶	あわホームホスピス研究会 代表 五反田 千代
18:40 ~ 19:20	在宅ホスピスケアボランティアの役割 がん患者と家族の理解	あわホームホスピス研究会 代表 五反田 千代
19:20 ~ 20:00	疼痛緩和の実際	徳島往診クリニック院長 院長 吉田 大介
20:00 ~ 20:30	質疑応答 参加者交流	

2日目 11/26(月)

	内 容	講 師
18:30 ~ 20:30	傾聴 —自分を物語る意味— (ロールプレイを通して)	あわホームホスピス研究会 代表 五反田 千代
	在宅緩和ケアの実際 看取りの過程とケア	日本看護協会 訪問看護認定看護師 長谷 康子

※ あわホームホスピス研究会 代表理事 五反田 千代 紹介 ※

- 徳島県小松島市生まれ。両親の仕事の関係で、中高生時代は、徳島市内で過ごす。
- 父親の「男女関係なく、アカデミックな視野を持った日本人になれ」という教訓のもと、聖路加看護大学卒業(当時の学長 日野原重明氏に師事)。
- 虎ノ門病院・急性期病棟勤務(3年) 東京都調布市役所勤務(保健師業務25年)
- ボランティア活動
@ケアタウン小平デイサービス(4年間)
@ケアーズ(株)白十字訪問看護ステーション「暮らしの保健室」設立準備事務局(2011年)
- 資格 助産師・介護支援専門員、精神保健福祉相談員

保健師業務の健康相談・訪問看護活動の経験から、その人らしい生活や最期の迎え方について、住民の皆さんから教えられたことを元に現在の自分の活動があります。

主催 あわホームホスピス研究会
共催 在宅医療連携拠点事業所 徳島往診クリニック

講師略歴

吉田 大介 徳島往診クリニック 院長

平成2年3月 東京医科歯科大学 医学部卒業

平成2年4月 当時の東京医科歯科大学医学部 第2外科学教室入局。取手協同病院 麻酔科研修を経て東京医科歯科大学附属病院 外科、埼玉県草加市立病院外科等の勤務を経て、生まれ育った徳島に帰郷。

平成11年9月 在宅医療専門の徳島往診クリニックを開院、平成19年3月 法人化。

平成22年3月 徳島往診クリニック附属訪問看護ステーション設立。

平成24年5月 厚生労働省より在宅医療連携拠点事業を委託される。

平成24年8月 在宅医療連携拠点事業所 ハートホーム開設。

資格・役職等 日本外科学会認定医

徳島市医師会在宅医療連携委員会 副委員長

NPO 法人 日本ホスピス緩和ケア協会四国支部幹事

PCC（緩和ケア診療所）連絡協議会事務局長

日本在宅ホスピス協会世話人

全国在宅療養支援診療所連絡会四国ブロック 世話人

とくしま在宅医療推進フォーラム実行委員会代表

NPO 法人 AWA がん対策募金副理事長

在宅ホスピスネットワーク徳島代表

東京医科歯科大学 がん治療高度専門家養成プログラム講師

長谷 康子

資格・役職等 日本看護協会 訪問看護認定看護師

あわホームホスピス研究会 理事

徳島県生まれ・徳島市内在住

略歴 徳島県立看護専門学校卒業後、社会保険神戸中央病院等にて約9年間臨床看護を経験

1996年より徳島県看護協会にて、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所に勤務。

2012年 訪問看護認定看護師資格を取得、

現在、あわホームホスピス研究会理事、グリーフケアの会等に所属。

自己紹介 私の強みはよく食べ、よく眠れる健康状態です。

看護の仕事はまず、自分が健康であることが基本であると感じています。

食べられて眠れることが、当たり前であると思わず、感謝していきたいと思っています。

第2回在宅ホスピスケアボランティア研修実績報告

日時：11月12日・26日（両日月曜）18：30～20：30

会場：徳島往診クリニック付属訪問看護ステーション

参加人数：1日目8名、2日目16名

<内容>

1日目、在宅ホスピスケアボランティアの役割・がん患者と家族の理解、講師あわホームホスピス研究会五反田千代／疼痛緩和の実際、講師在宅医療連携拠点事業所徳島往診クリニック院長吉田大介

2日目、傾聴 ー自分を物語る意味ーあわホームホスピス研究会五反田千代／在宅緩和ケアの実際～看取りの過程とケア～、訪問看護認定看護師長谷康子

<配布資料>

- ・研修プログラム（A4両面：講師略歴）
- ・研修アンケート1日目2日目
- ・在宅ホスピスケアボランティア育成研修会講義資料（4種類）
- ・1四国在宅医療推進フォーラムちらし
- ・在宅医療連携拠点事業所ハートホーム案内
- ・徳島往診クリニックパンフレット

<受講の様子と振り返り>

月曜日の夜間の日時開催に2日間とも参加するのは難しい状況が、判明した。今後は、アンケートの回答も含め、月曜以外の平日の夜間か、午後後半など、また事業所内での研修企画と共催などの方法をとって行くことを検討したい。

在宅ホスピスケアボランティアボランティアの役割について、参加者に充分明示できなかったことが、アンケートから伺われる。理解度が、1日目より2日目が低下しているのは、単発で1日目のボランティアの役割について、受講できていない者が、50%いるためと考えられる。講義内容について、ボランティアを含めた外部講師の講義内容を事前に打ち合わせすることを徹底したい。また、具体的な、育成計画を提示することが必要ということが参加者の意見からわかり、今回はじめて、明文化できた。在宅医療の実践者が緩和ケアや医療の内容を事例を通して、紹介することが、専門職の参加者にとって、興味深く説得力のある事柄として、印象的に学習できることが、受講者の様子やアンケート回答からわかった。

<アンケート集計結果>

- 1 参加者の属性 介護支援専門員4名、歯科医師1名、看護師5名、看護教員2名、精神保健福祉士1名、学生1名、事務職1名、社会福祉士1名
- 2 患者家族の相談にかかわっているー13名
- 3 所属 居宅支援事業所4名、訪問看護ステーション2名、診療所1名、介護保険施設1名、病院2名、在宅医療連携拠点事業所2名、大学関係3名、行政1名
- 4 参加動機 仕事に役立つ2名、在宅ホスピスケアボランティアに関心がある3名、講師の話を聴きたい2名、誘われた1名

5 研修の中で印象に残ったこと

- ホスピス=もてなしということが印象に残った。
- 疼痛緩和薬の使用方法
- ボランティアは自分のできることをする、これなら気軽にできそうな感じがした。気負わなくてもたくさんできることがあること。
- 患者の心理と痛みに影響する関連因子について
- 痛みの緩和の時期と服用時間について
- キューブラーロス氏の話とレスキュードーズについて

6 在宅ホスピスケアボランティアに対する理解度

1日目 83% 2日目 70%

7 研修の内容でわかりにくかったこと。

薬剤名

8 あわホームホスピス研究会に期待することやご希望

今後もこのような研修などの活動を続けてほしい、このような研修にまた参加したい、など。

9 在宅緩和ケアの内容や在宅で最期を迎えるイメージができたか。

14名（参加者の88%）

10 傾聴で学んだこと

傾聴が大切だと再確認した。
傾聴の体験ができてよかった。
相手の話を引き出すポイント
相手の本音がどこにあるかわかることが大切
言語非言語両方を駆使して聞くこと

11 ボランティアに期待すること

インフォーマルなサポート 8名
専門職に言えない本音を聴く 9名
グリーンケア 3名

12 ボランティアと連携するときに気がかりなこと

- 1位 医療知識の格差があり、情報共有がどこまでできるか
- 2位 守秘義務の遵守
- 3位 ボランティア自身の負担軽減方法
- 4位 ボランティア受け入れをする過程の負担
活動の頻度と時間帯

13 参加しやすい研修の開催日時について

- 1位 平日の夜
- 2位 土日祝日中、長時間で1日制、短時間で複数日制